

氏 名： 水谷 真由美
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第 126 号
学位授与年月日：2015 年 3 月 10 日
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 田代 順子（聖路加国際大学教授）
副査 麻原きよみ（聖路加国際大学教授）
副査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）
副査 近藤 麻理（東邦大学教授）

論文題目：Development of a Preventive and Promotive Health Behaviors Model
for Middle-aged People with Hypertension in Rural West Java,
Indonesia

博士論文審査結果

本論文は、保健問題が感染症予防・母子保健中心から非感染症予防へと位相するインドネシアの西ジャワの地方都市に住む高血圧と診断された中年の人々の予防・健康増進保健行動モデルを開発し、今後の保健プログラムの開発への提言を目的に行われた。本研究の枠組みは、PRECEDE-PROCEED Model (Green, 2005) を基に、面接調査および健康行動研究の文献検討を統合し構築した。「高血圧症を診断された中年の人々の高血圧予防・健康増進行動」は 9 つのライフスタイルで構成され、それら「予防・健康行動の予測諸因子」（宗教的支持、経験、ソーシャルサポート、ヘルスシステム）が行動信念や能力に影響し、さらに「社会的・環境的バリアー」、が「個人のバリアー」に影響される「予防・健康増進行動」をとりがちなモデルを構築し、横断的調査により検証した。質問紙は、1) 9 下位尺度計 72 項目を含む予防・健康増進調査票、2) 予測因子調査票を（計 112 項目の個人的予測因子、社会的予測因子、環境的予測因子）、3) 成果因子として、健康状態、Quality of Life、血圧、BMI を調査した。

研究参加者は、4 地区に分け、その地区の保健センターを無作為抽出した保健センターで高血圧と診断された中年男女計 450 名であった（回答率 100%）。有効回答ケースの 447 を分析対象とした。447 ケースの 77% は女性であり、協力者の平均年齢は 54 歳であった。参加者は、「減塩行動」、「禁煙」、「運動」、「検診行動」は低く、「減塩行動」は「健康情報探求」と；「他者へのケア」は「運動」と；「神への帰依」は「ストレスマネージメント」と関連していた。加えて、「行動信念」、「能力」、「イスラム霊的支持」、「社会サポート」と；「保健システムサポート」はこれらの諸行動と；そして、「健康状態」と「ストレスマネージメント」は「QOL」と関係していた。今後、高血圧予防に関して、保健センターでの減塩プログラムの展開が必要であり、NCDs 予防に関する保健ボランティアをはじめ看護職等の教育の見直し、宗教指導者を含め、地域全体での取り組みが必要であると提言された。

本研究は、異文化の中での調査でありながら、段階的に丁寧に進められた研究であると評価された。しかしながら、以下の 5 点の指摘があり、加筆修正が求められた。

- 1) 本研究の前提としている理論を明示されていないが、前提となる理論を提示し、前提となる理論との関連での考察をすること。
- 2) 対象となった地域差が存在するが、地域による行動の違いの分析が無いので、地域差の視点からの分析を追加すること。
- 3) 宗教・信仰、あるいは宗教による規範が特徴として挙げられているが、考察で、丁寧に健康行動との関連あるいは保健プログラム提言向け、考察をする必要がある。
- 4) モデル構築で変数の投入が限定されているので、さらに広げて分析すること。
- 5) 変数のカテゴリーがモデルの中で明確にすることによりモデルが明確になる。

これらの指摘に関して再考し、加筆・修正がなされ、各審査員が最終確認した。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を与えることに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。）